

孤独な戦いだからこそ、地域の人の応援が力になる。



(写真) 家族提供



— 三芳町のゴルフ選手 —

広報みよし3月号で紹介した日本大学3年の勝俣陵さんが8月に行われた県アマゴルフで初出場初メダリストに輝き、10月の日本オープンゴルフ選手権の出場権を手に入れました。また、4年前には町内初のプロ女子ゴルファー落合めぐみさんが誕生するなど、町のゴルファーが輝いています。



プロゴルファーをめざす勝俣陵選手。役場の前にて。



— 車椅子バスケットとは —

ボール、時間制限、コート広さ、リングの高さなどは一般のバスケット同様。特徴は各選手、障がいの程度によって持ち点が与えられること。また、ドリブルをせずに3回以上車椅子をこぐとトラベリングという反則になります。選手が車椅子を自在に操り、通常のバスケットとは違った魅力があります。



9月10日に行われたパブリックビューイング。



生きがいであり、夢を叶えるもの。

(写真) 車椅子バスケットボール連盟より提供

三

芳町に生まれ、お父さんの影響で

ゴルフを始めたのが6歳の時。「初めて試合で優勝したのは小学2年生の頃です。悔しいこともたくさんあったけれどゴルフが楽しいんです」と語る岩崎美紀さん(16)。現在は、関東高等学校ゴルフ選手権で団体優勝するなど全国の試合に参加し、海外にも活躍の場を広げる若手選手です。

小柄な体から想像もつかないほど、試合中は力強くクラブを振り、遠くへボールを飛ばす岩崎さん。自宅玄関先には緑のネットに囲まれた、広さ約2畳程度のお父さん手作りの練習場で腕を磨き、毎日素振りをするを日課とし、練習と努力を欠かさないことが実を結んできました。

ゴルフで得たもの

「ゴルフは常にひとり。自分との闘いなんです。メンタルが鍛えられました」と言う岩崎さん。「地域の子にはグラウンドゴルフでもいいので、ゴ

ルフに触れ合い興味をもってほしいです。少しでもゴルフの魅力を知ってくれる人が増えると嬉しいです」と語りました。

夢は東京五輪出場

「三芳町は静かで自然が多いので、ゴルフ場と同じ雰囲気を感じることができます」という岩崎さんがめざすものとは。「夢は2020年東京オリンピック出場。学校には目標とする先輩もいます。まずは毎日の練習を大切にして、挑戦し続けたいです。」と期待に満ちた目で語りました。



PROFILE みのり 岩崎美紀さん(16)

2000年生まれ 三芳町出身 154cm B型 父の勧めでゴルフを始める。ドライバー平均飛距離は230ヤード。ベストスコア66。10月に岩手県で開催される国体に出場予定。

三

芳町で初となるパラリンピック日本代表選手の永田裕幸さん(32)は、9年前、スノー

ボードの事故で両足が動かなくなりました。「入院中、リハビリを兼ねたスポーツの時間に、初めて車椅子バスケットに出逢いました。最初はなかなか思い通りにならず、悔しかった。うまくなるために夢中で練習しました」。小学校から高校まで野球少年だった永田さん。もともとあった積極性と、野球で培った運動センスを活かし、数年でトップ選手へと成長しました。

生活の場と仲間 選んだ三芳町

「事故後、バリアフリーが気になるようになりました。独り暮らしを機に車椅子で住める所を探して三芳町に越してきたんです」と永田さん。「パラリンピックを通じて、車椅子バスケットの魅力や存在を、多くの人に知ってもらいたいです」と力強く語りました。

町長の まち・ひと・しごと 魅力発見

8月10日に町長を表彰訪問し対談。「パラリンピックを通じて車椅子バスケットの魅力が少しでも多くの人に伝われば嬉しい」と話し、パラリンピックでの活躍を誓いました。



PROFILE

ひろゆき
永田裕幸さん(32)

1984年生まれ 鹿児島県出身 23歳の時に脊髄損傷。車椅子バスケットチーム「埼玉ライオンズ」のキャプテンを務め、リオデジャネイロパラリンピックでは日本代表に選ばれる。

